

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

Ⅰ.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

Ⅱ.家族との支え合い

Ⅲ.地域との支え合い

Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和2年2月21日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 11名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	6名	

※事業所記入

事業所番号	3870501628
事業所名	グループホーム 竹トンボ
(ユニット名)	コスモス
記入者(管理者)	
氏 名	横川 崇 前田久乃
自己評価作成日	2年 2月 3日

【事業所理念】 「日々是好日」どんなにしんどい日も頑張って生活をして、今日も良い日にしようと思いながら頑張ると明日も良い日がやってくる。 地域との連携を密にし、地域に溶け込んだ施設を目指します。	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 小高い山に立地する竹林に隣接の平屋建ての事業所の近くには新興住宅が立ち並んでいる。同じ敷地内には居宅介護支援事業所とデイサービスが併設している。中庭を囲む回廊式の建物の事業所は、玄関を入ると左右にユニットがある。玄関側はユニットを隔てる扉がなく、自由に行き来できるようになっている。家庭的な雰囲気の中で、その人らしい自分の時間を過ごしてもらえよう、利用者一人ひとりの生活歴や性格、思いを把握し、職員全員で考え支援している。管理者は職員の専門性をより高めることが利用者の生活の質の向上につながるものと考えており、職員数に余裕はないが勤務体制を互いに協力・調整をしながら、今年度は3名が実務者研修を修了し、介護福祉士の国家試験を受験している。
---	--------------------------	---

評価結果表

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日々の生活の中で、たわいのない会話から個々の思いに耳を傾けている。	○		○	生活のそれぞれの場面で職員は利用者に思いを聞いている。また、来訪時などに家族から意向等を聞き取り、担当職員とも相談しながら希望や意向の把握に努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	フェイスシートやこれまでの生活歴などを参考にし、また、本人の日々の表情を観察して随時話し合っている。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	ご家族の面会時には、ご家族の要望、本人の思いなど話し合うようにしている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	会話の中で発見、知りえた情報は申し送りや、ケースに記入し、職員間で共有している。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	自分の意思を表現できない方に対し、職員のペースの介護になっていることがある。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入居前に、ご家族、施設(デイなど)ケアマネ、病院などから基本情報、サマリーなどもらい、職員は知ることができる。また、家族希望のリハビリや趣味や宗教などは継続し支援するようにしている			◎	重度化している利用者にも、これまでの入居生活の中で利用者や家族から希望や思いを聞いて職員間で把握している。信仰を重んじる利用者に対しても、思いを大切にしながら支援している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	日動から夜勤、夜勤から日動へ、状態の申し送りをを行い、持っている力の発見があれば、随時話し合っている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の生活で、不穏になったり、表情に変化が見られた状況を把握できるように努めている。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	必ずしも解決へと向かうわけではないけれど、要因を探り、職員間で様々な意見を出し(会や合間で)、不安材料を取り除けるよう努めている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	△	共同生活であるため、なかなか一人ひとりの時間を持つていただくことは難しい。それでも時間の費やし方は利用者のニーズに答えられるようにしている。				
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	日々職員で情報を共有し、利用者の言わんとする気持ちを理解するようにしている。職員それぞれの視点からも観察し生かしている			○	担当職員をはじめ関わるのあるすべての職員は、日々の支援で利用者の気づいたことをその都度、管理者や介護支援専門員に報告している。月1回のユニット会議で「ケアプラン行動チェック表」を確認しながら、職員は利用者のできることを応援する気持ちで意見を出し合いながら支援している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	日々職員の観察で気づいたことを話し合えている。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	月1回のユニット会で一人ひとりについての状況を確認しあい、ケアプラン作成に反映している。				

愛媛県グループホーム竹トンボ

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人が より良く暮らすための 介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	随時利用者に希望を伺っている。重度の方は日々の観察で読み取る努力をしている。				ユニットごとに介護支援専門員を配置し、利用者の情報の把握に努めている。担当職員から介護支援専門員に利用者の状態やできること、できなかったことなどの情報がよく伝えられている。重度の利用者の思いも職員は日々の暮らしの中から推しはかりながら、ユニット会では職員全員で意見を出し合い、介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	ユニット会での職員の意見を取り入れたり、面会時にご家族の意向を伺い、実現できるようなプラン作りに努力している。職員それぞれの視点からも観察した意見も生かしている。	○		◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度の方であってもできるだけ本人の希望を伺い、ご家族にも相談にのってもらっている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	×	ご家族や地域の方との交流はプランには盛り込まれていないので、今後検討していきたい。				
5	介護計画に基づいた 日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	プランについてはユニット会で再確認し、日々実施状況をプラン表に記録している。入退院時などは随時変更している。別に申し送りノートも共有している。			◎	ユニット会の記録はファイルにまとめ、職員の誰も見られるようにしている。介護計画の内容に沿った支援の提供や利用者個別の目標が達成できているかなど、職員は「ケアプラン行動チェック表」に毎日記録しているが、1日1回のチェックや○×評価、状況把握だけでは不十分な内容となっている。今後はより確実な利用者の状況把握や一人ひとりに見合った目標設定につながるよう、様式を見直すなどの取組みを望みたい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	プランに沿ったケアに心がけ、表に実践状況を記入している個別記録表にも記録し実施状況を記録している。			△	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	場面場面での利用者の表情、言葉、動作など、細かく記録している。			○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	個別に発語や表情なども記録しているユニット会で意見交換できている。			△	
6	現状に即した 介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	3ヶ月毎に見直しを基本にし、状態の変化に応じて都度見直ししている。			◎	介護計画は3か月ごとの見直しを基本としている。利用者の変化がある場合には、その都度すぐに見直し変更をしている。高齢化で状態を確認しても変化のない利用者も多く、心身等の現状維持が目標となっている場合もあるが、軽微な変更の場合もユニット会で職員全員で話し合いながら、期間の見直しや実施目標を追加するなど、新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	月1回のユニット会で利用者1人ひとりについて状態確認している。			○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	まずは職員間で検討、新たなプランを作成、家族に現状報告し、同意を得ている。個々の生活する中での課題や問題点など考察し何を優先して行うべきか検討している。			◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	月1回ユニット会を開いており、意見交換できる場がある。申し送りやノートを共有している。			◎	月1回ユニット会を開催し、利用者一人ひとりのカンファレンスを実施している。会議に参加ができない職員にも事前に気づきなど聞き、ユニット会で協議をしており、後日職員は会議内容を必ず確認するようにしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	会は職場リビングの1テーブルでしているので程よい距離感で意見も出しやすい。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	2ユニットがそれぞれのユニットで会を開いており、全員が参加できている。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	話し合った内容を議事録としてプリントし、決定事項、変更事項などを把握してもらうようにしている。			◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	口頭での申し送りに加え、申し送りノートにも記入し、共有できるようにしている。			◎	情報伝達は口頭での申し送りと申し送りノートに記載するほか、職員はすぐに確認できるようにホワイトボードも活用している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	申し送り、ケース記録、業務日誌の記入で多重の伝達を行っている。	◎			

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	こちら側からのお仕着せのレクの傾向が強い。				日中に利用者はリビングでテレビを見たりパズルをしたりするなど、思い思いに過ごしている。一人ひとりが希望する呼び方で利用者呼びかけ、優しい言い方や親しみを込めた声かけなど、利用者に合わせて対応するよう工夫をしている。月1回併設のデイサービスでボランティアのマンドリンとオカリナの演奏会があり、希望者は参加を楽しみにしている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	△	強制はしておらず、自己決定できる方には要望を聞いている。時々選択食を行い本人の意向を取り入れている。			○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	利用者のできる力を理解し、無理強いせず楽しく取り組んでいただけるよう支援している。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	すべての場面で個々の希望に沿うのは難しい。				
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	生活歴をもとに利用者の会話を引き出せる内容を話題にするようにし毎日を楽しく過ごせるような声掛けを心かけている。			○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	日々、利用者の表情、発語、感情の起伏などの観察を大事にしている。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	プライドを傷つけないような声掛けを行い、目上の方に対する言葉遣いに気を付けている。個々の性格や受け答えにあった丁寧な言葉使いを心掛けている	○	○	○	職員は利用者一人ひとりに合った対応を心がけている。リビング等でトイレ誘導をする場合にはトイレという言葉は使わず、職員から「〇〇に行きませんか」と声をかけ、途中でトイレに立ち寄れる配慮をしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	特にプライバシーに関することは耳元やお一人の時に思いやりのある言葉遣いで声掛けしている。個々の性格に合わせてさりげない支援を心掛けている			○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら助助を行っている。	○	不安な方には寄り添い、遠慮がちな方にはドアの外で声掛けを行うなど、利用者に応じて対応できている。				
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室の際はノック、声掛けを行い、失礼のないように気を付けている。見学時なども本人の許可を得てから入室している。			○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	雇用の際に、個人情報遵守の義務について説明を受けている。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	昔の遊びやことわざ、習慣など教えていただくことも多く、洗濯物や牛糞のさがきなど、家事にも参加していただいている。				他の利用者のことがとても気になる利用者には、リビングの席をさりげなく替えるなど、職員は配慮して対応している。職員は利用者一人ひとりがやりたいこと、できることをしてもらえよう支援している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士の会話を互いの支えあいを感じる。レクなどでも同席の方が手助けをされ供に組み込まれています。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	△	やむを得ず孤立されている利用者にはできるだけ声掛けを行い、職員が寄り添い同じ席で支援し他利用者との諍いを避けるようにしている。状況の変化に応じ随時席替えなど行っている。			○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	職員が中に入り、中立の立場で、場面の切り替えを行えるよう努めている。				

愛媛県グループホーム竹トンボ

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入所時の聞き取り情報などを職員間で共有している。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	ご家族からの情報やフェイスシートを基に情報を得ているが、地域の情報は少ない。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	一部の方は、ご家族と受診に行かれた際、友人も一緒に食事に行かれている。ご姉妹の送迎で外出される方もおられる。以前は宗教活動にも参加されていました。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会は日中であれば特に時間制限はなく、リビングでも居室でも可能。玄関チャイムで職員が出迎え、誘導している。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	気温にもよるが、暖かい日は、玄関ポーチや中庭で日光浴やしりとり遊びなどしている。園庭や中庭には自由に出れるようになっていて各所にベンチやソファも置いてある。	○	△	○	病院受診や個人的な外出には、家族の協力を得ている。以前は敷地内や近所まで外出していたが、坂道があることと合わせて外歩きが難しくなってきた利用者も多いため、現在は事業所内を散歩している。季節に応じて、職員はぶどう狩りやお花見、夏祭りなどの行事を企画し、利用者の体調を考慮しながら外出できるよう支援している。寒い時期には外出することが減る傾向にあるが、併設のデイサービスにも出かけてたり、車から降りることは難しいが気分転換にドライブに出かけたりしている。天気の良い日には、重度の利用者も中庭に出て日光浴をしている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	外出は、家族が職員で行っている。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	お花見や夏祭り、餅つきなどの行事にはできるだけ参加してもらっている。				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	一部の方はご家族が本人希望の外出に出かけられている。季節の花などの鑑賞に出かけたりいちご狩りやぶどう狩りも行っている。				
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	理解を深めている中で、不穏の原因を取り除く努力をしている。新しい発見もまだまだ多くある。				開所当初からの利用者は高齢となり以前のような意欲はなくなってきたが、職員からの声かけや見守りにより、マイペースで過ごせるよう支援している。リハビリは職員から声をかけ、その日の状態で無理のない程度でしてもらえるよう支援している。事業所内にあるマッサージ器も、職員の見守りのもと利用者は自由に使用することができる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	様々な機能の低下を理解し、次の段階を予想し、低下を防ぐために家事の手伝いやレクリエーションへの参加を促している。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	鉢を使つてのメモ作り、洗濯物干し、包丁を使って牛蒡のさがきなど、一見危なそうではあるが、出来そうな方には見守りややり遂げて頂いている。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	洗濯物干し、テーブル拭き、文字けしなど利用者のできる力に合った役割を持っていたいっている。				職員はやってくれそうなことを利用者に提示しているが、無理強いはいしない支援をしている。すべての利用者は女性であり、洗濯物干しや畳み、食事の準備、下ごしらえなどを手伝ってもらっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	今日できることが明日でもできるように、をモットーにしており、できなくなってきたてもサポートしながら続けていただいている。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	以前は地区の夕涼み会やお祭り集会に参加していたが、最近は餅つき、施設の夕涼み会に地域の方に来ていただいている。				

愛媛県グループホーム竹トンボ

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしやれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしやれについて把握している。	△	気温や体調に応じたものを選ばせてもらっているが、好みの服に着かえてもらえる方もいる。髪を常に濡らし、セットされる方もいる。				着替えや整容など、利用者自身でできることはしてもらっている。洋服選びなどの身だしなみは、利用者の状態に合わせて職員から助言するなどの支援をしている。骨粗鬆症が進んでいる重度の利用者の衣服には、着脱しやすいように職員がマジックテープの仕様に替えるなど、負担を少しでも減らせるよう工夫している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	散髪は本人にする、しなみを聞き、家族にも相談している。最近では携帯電話を持たれている方がいる。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	できるだけ自分の意思が伝えられるような引き出し方に心がけている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	△	特に行事に合わせた服装に留意できていない。外出時には気を付けている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできたり、げなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	起床時は整容し、着衣の乱れは直し、食事の際はエプロンを使用したり口元の汚れは専用のタオルでふき取るようにしている。靴は個々に応じた対応を行っている。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	行きつけの美容院の希望があれば送迎可能であるが、現在は施設の訪問美容をほとんどの方が利用されている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	寝たきりの方はご家族とも相談し拘縮などもある為衣類脱着が本人の負担にならないよう工夫している。			◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	旬の食材をおいしく味わってもらい、盛り付けも見た目にこだわっている。栄養状態の確保にも努め補助食も使用している				利用者の好みや食べたい物、飲み物などを聞き、内容によっては選択できるようにしている。献立は管理者が立て、一人暮らしだった利用者の希望でインスタントの麺類を選択したり、旬の食材を取り入れたりする工夫をしている。食器類は利用者の使い慣れたものを持ち込んでもらったり、使いやすい物を事業所で準備したりしている。利用者は自分の箸や茶碗、湯のみを認識して使用している。職員も食事を一緒にしながら、利用者の食事介助や見守りを行っている。重度の利用者には、ムース食などの形態に変更したり、好物のケーキや餅なども摂取できるよう提供方法を話し合い、献立に取り入れている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	日々食べたいものは伺っており、メニューに加わることもある。下ごしらえしてくださる方もいる。時々選択メニューや自宅でごく食べてたカップラーメンなども提供している。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	できる方には調理の下格えを手伝ってもらい、食事の前は皆さんで「いただきます」の挨拶、食後はマット、エプロン、テーブル拭きなど役割を持っていただいている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	入所前の家族からの聞き取りをもとに、入所されてからはご本人の様子から苦手なものに関しては代替えも検討している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	普段の会話で食べたいものや好きなメニューなどを伺ったり、メニュー作成担当者は旬の食材を取り入れた献立作りに気を配っている。選択メニューや季節の風物詩的な献立も取り入れている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いどりや器の工夫等)	○	状態に合わせた形態にしており、ムース食を利用し、普通の食事と同じように見た目、味、香りが楽しめるようにもしている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	茶碗、湯呑お箸は個別の物を使用していただき、状態に応じ、軽い容器、麻痺のある方は、テーブルに吸着性のある容器を使用されている。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	各テーブルで職員も共に食事し、利用者の様子を見守りながら、サポートも行っている。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	移動が難しい方は居室で食事介助を行っているが、生活音を感じてもらえるようドアは少し開けているので調理の音や、雰囲気は気づいておられる。	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	メニュー作成者が栄養バランスを考えた献立を立て、水分や食事摂取量は都度チェックし、気を付けている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事形態は状態に応じた物を提供し、食事量低下がみられた場合には主治医に相談し高カロリードリンクなどで補ったりもしている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	栄養士のアドバイスは受けていないが調理担当者同士が相談しあい、食べ易いようにしている。また毎日の摂取量や食事形態にも随時対応しています。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	1介助1手洗いを遂行しており、ハイター消毒も行っている。				

愛媛県グループホーム竹トシボ

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの重要性は理解しており、必要な方には逐一声掛けも行っている。				毎食後、職員は口腔ケアを積極的に行い、利用者の口腔内の健康状況を把握している。利用者も嫌がることなく進んで歯みがきをしており、1日に複数回歯をみがいたり、ガーゼを使用したりする利用者もいる。自分でできない利用者には職員が介助をしている。義歯の調整などは訪問歯科を利用している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	治療、義歯の調整の必要な方には往診を依頼できる歯科がある。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	往診に来てもらった時に注意したらいいことなど聞くことができる。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎食後の口腔ケア時に、声掛けや介助も行っている。夕食後は義歯洗浄剤を使用し、清潔にしている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後、口腔ケアへ誘導行い、見守り、声掛けしている。義歯は毎日消毒行っている。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	食事の際の様子で判断したり、本人からの訴えも聞いたりして歯科に往診依頼している。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	排泄の 패턴を検討し、定期的にトイレ誘導し、トイレで排泄ができるよう支援している。				おむつメーカーによる研修を事業所で行い、個別に適したおむつやパンツを試用するなど、職員は工夫しながらより良いケアを目指している。可能な限り布パンツを使用し、職員は誘導を行いトイレで排泄できるよう支援している。排泄チェック表で確認しながら、3日間排便がない利用者には、医師に薬を処方してもらい調整しながら支援している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	排泄チェック表をもとに、主治医に相談、緩下剤の利用もしている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄チェック表をもとに、職員間で確認している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	日中は、重度の方以外はトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。紙パンツ、パットの類が適切なものが使用されているかは常に話し合っている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	ユニット会で皆と話し合っている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	定期的に、無理強いでない声掛けを行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	使用に関してはご家族に相談、了解を頂いている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	個々の状態に合わせて、日中と夜間のパッドを変えたり、夜間のみテープ式オムツを使用したりしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	果物を食べてもらったり、腹部を軽くマッサージさせてもらっている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	入浴日はこちら側の都合となっているが(毎日午前中)、重度の方は午後、入浴用リクライニングを使い、二人介助している。	◎		◎	行事などで入浴できない日があっても問題ないように、週5回入浴できるよう支援している。本人の希望で2日に1回の利用者もいるが、ほとんどが週5回入浴している。管理者は毎日のように入浴する機会があれば、楽しみな日課として習慣化することを考えている。一番風呂が良い利用者や熱めの湯が好きな利用者など、職員は好みにできる限り浴えるようにしている。重度の利用者には、週2回リクライニングのシャワーチェアを使用して入浴している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	個室であり、ゆっくりと会話や、ご家族の話で穏やかに入浴できるように支援している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	本人ができるような前身の洗身、洗顔は見守りの中でしていただいている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	しつこい誘導はせず、時間を開けて声掛けしたり、職員が変わったりしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	前日夜勤の申し送り、その日の状態を見て決めている。入浴した場合はその後の状態観察、夜勤への申し送りも行っている。				

愛媛県グループホーム竹トンボ

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜勤の申し送りや、自分の夜勤での経験で把握できている。				排泄のことが気になる夜間トイレにこもってしまう利用者などは、日中に傾眠傾向が見られるため、医師に相談し睡眠導入剤を使用する場合もある。新しく入居した利用者には、赤外線センサーを使用して睡眠パターンを確認させてもらい、生活に慣れると取り外している。現在のところ、夜間は事業所全体が落ち着いている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	尿意、便意などで不眠の方には日中のトイレ誘導の回数や、運動量を増やすなどの取り組みをしている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	できるだけ薬に頼らないよう、日中の運動量を増やし、自然な眠りを期待している。困難なケースは主治医に相談し専門科受診を行っている。			◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	疲れの見える方や、部屋で休みたいと望まれる方はいつでも居室で休憩ができる。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	電話があれば家族からの了承がある方であればお繋ぎできる。携帯電話使用されている方もおられます。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	暑中見舞いや年賀状は手を添えて書いていただいている。電話は、携帯を持たれている方は自由にかけられている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	電話がかかってきた時は少し距離をおいて見守るなど気を配っている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人にお渡ししているが返信を促してはいない。年賀状などは個人にお渡ししている				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	不穏時には電話をかけることを理解していただいており、お近くの方には面会をお願いもしている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	居室に施錠もしないため現在は現金を所持されている方はいない。家族との外食を楽しまれている方はおられる。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	現金を待たれている方はいないが、雑誌などで本人が必要とされる物の購入を代わりに行っている。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	以前は毎回施設の食材の買い物に同行されていて方もおられたが、重度化が進み、外出が少なくなっている、				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	管理できる方は家族の了解を得て、所持されていたが、現在は、入所時に家族の希望も聞き、所持されている方はいない。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入所時に家族に相談、意向も聞いて応じている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	必要品は、家族に連絡して購入の理由を説明し、了解を得て立て替え購入、月に1度の請求時に領収書を添えて送付している。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	状態は変化していくので、都度相談している。本人やご家族のあった場合は相談し検討するようになっている。	◎		○	通院やお墓参りなど家族が対応しているが、告別式への参列など緊急な場合は、遠方の家族では対応できないため、職員は送迎や介助の支援をしている。

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関は鍵をかけておらず、近隣の方も自由に訪問できる開放感がある。	◎	◎	◎	職員が事業所周りの花や畑の世話をきれいにしており、玄関周りも明るく広い造りとなっている。運営推進会議への参加者が散歩の時に事業所に立ち寄り、ゆっくり話をして帰ることもある。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。（天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそごような設えになっていないか等。）	○	玄関からリビング、居室、浴室への動線が単純で、広い廊下幅をとっており、危険が少ない。居室や、廊下には、自身の作成品も貼っており、温かい雰囲気になっている。在るべきものは在るべき場所に置くようにしている。	○	○	○	広いリビングで利用者は、パズルや折り紙づくりをしたり、テレビを見たり、畳の座敷に腰掛るなど、落ち着いた空間の中で自由に過ごしている。リビングに面した廊下には手すりも多く設置され、利用者のペースでゆっくりと歩く練習をする様子が見られた。電化キッチンリビング内にあり、食事作りの様子や匂いが感じられ、食事を楽しみに待つことができる。トイレと洗面台などは専門業者が入り清掃してもらっているが、居室は職員が掃除をしている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	リビングには遮光カーテンを使用し、中庭には、手創りの日除けシェードを設け、利用者の方が不快な思いをしないよう毎日掃除している。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	リビングから見えるキッチンからは調理の音や匂いを感じる事ができ、季節に合わせた音楽を流している。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	仲の良さそうな方同士を同じテーブルにしたり、リビングの中のソファでひとり寛いで頂くこともできる。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	ドアで外部との遮りができる。				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	居室の中はご自宅なので基本的には自由に物を置いて頂きオリジナル空間で過ごして頂いてます。	◎		◎	居室にはテレビやソファ、家族の写真、仏壇など、自由に好きな物を持ち込むことができる。畳の居室もあり、利用者の安全に配慮している。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	全てバリアフリーとなっており、廊下全体を手すり使用すれば日常の行動ができるだけ自立しやすい環境になっている。各所に椅子やソファ、ベンチを設置しています。			◎	トイレの場所が分かりにくい利用者のために大きく表示するなど、どこからでも分かるように工夫をしている。リビングと廊下が一体化しており、歩行器や車いすでも安全に移動できる広いスペースとなっている。事業所内は自由に移動でき、利用者が疲れたら休めるソファが玄関や各所に設置されており、安全に何気なく身体を動かすことができるように配慮することで自立支援につながっている。両方のユニットから中庭に出入りすることができ、天気の良い日には、それぞれのユニットの利用者同士の交流の場となっている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	危険と思われるものは目につかないように気をつけている。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。（ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	○	本人、家族から趣味や、得意なものなどを伺い、余暇に手近にお持ちしている。				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟）の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等）	◎	出入り口の施錠も拘束と捉えており、夜勤以外は鍵をかけていない。	◎	◎	◎	管理者や職員は鍵をかけるリスクを理解して、玄関の施錠はしていない。職員は利用者が自宅ですべて自由に過ごせるように感じられるよう配慮し、外出したい時には付き添って対応している。安全のため施錠を希望する家族もいるが、職員は丁寧に説明をして理解を得られるよう努めている。玄関にはセンサーを設置し、来客や利用者の出入りを把握できるようにしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	施錠のリスク、施錠をしないリスクについて説明し、理解してもらっている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している（外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等）。	○	可能性のある利用者の把握、玄関にはチャイムを設置、近隣の方への理解も徐々に深まっている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入所時の家族からの聞き取り、フェイスシートで把握に努めている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	日々ケース記録、日誌に記入している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	主治医に相談できる関係ではある。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	家族の希望を聞き、個別対応できている。基本的に入居時に主治医の変更は行わず継続し診療を受けています。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	家族の希望に応じている。状態の変化が起こった場合には主治医とご家族に相談しています。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診は基本的には施設では基本一回のみ対応し複数箇所の場合にはできる限りご家族に依頼しています。ただし遠方のご家族の場合にはこちらで対応しています。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時には毎回介護サマリーを提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	2日に1度は様子を見に行き、看護師に状態を聞いている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	受診時にいろいろな相談をしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	職員間で日々の気づきを話し合い、管理者に相談、受診時に主治医に伝えている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	△	すべての医療感ではないが、救急搬送には協力的なところもある。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	日々の見守りで体調の変化が見えたら受診行い、病状の悪化防止に努めている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	処方箋、薬の説明を見て副作用などの理解に努めている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	個々の薬袋に薬を入れ、手渡し、若しくは介助で飲み込まれるまで確認している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	薬を飲むことで安心される方もおられる。服薬後は様子観察している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	状態の変化に気づいたら、記録に残し、管理者に報告、主治医に相談している。				

愛媛県グループホーム竹トンボ

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	状態の段階に応じ本人の希望、家族の意向をしっかりと確認している。				利用者や家族から看取り支援の希望があった場合には、主治医と家族の協力を得て、管理者はできる限り事業所で看たいと考えているが、夜間の急変時や他の利用者への対応もあり、現在の職員数で限界があり、現状では対応することが難しい実情である。今まで事業所では看取りの経験がなく、職員にも不安がある。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	本人家族の意思は職員、主治医にも伝え、共有している。	△		△	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	医療関係者と話し合い、職員の限界を見極めてくれている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	状態の変化に応じ、家族には施設の限界を説明、理解していただいている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族や主治医と連携を図り、今後の予測を立てた支援をしている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族が孤立、不安にならないよう支援している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染の経験を活かし、予防の徹底、早期発見、治療に努めている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	訓練は行っていないが、日ごろから、感染症予防、早期発見、医用機関での治療に心かけている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	ニュースや新聞、個々の情報網、インターネットなどで感染症に関する情報を得ている。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	定期的受診で医療機関から情報を得たり、職員は感染症の拡大を防ぐため予防接種を受けている。(インフルエンザ対策)				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	基本、1介助1手洗いとしている。うがいについては徹底されていないので、検討の必要がある。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	本人のために家族と同じ方向を見て、ともに寄り添える立ち位置でいたいと思っている。				家族には事業所行事などに参加を呼びかけ、職員は利用者と一緒に過ごす機会を作っている。来訪の機会が少ない家族を含め、すべての家族に月1回利用者の生活状況のお知らせを送るほか、年4回季刊誌を送付している。夏祭りや餅つき、お花見なども文書で案内しているが、参加する家族は固定化している。家族会の設立も提案したが、家族にもそれぞれの事情があるため、実現には至っていない。運営推進会議では運営上の事柄や担当職員の変更など報告しているが、十分に伝わっていない様子が窺えるため、職員は家族への伝え方を工夫して欲しい。家族の来訪時には職員から声をかけ、居室で要望や相談を聞いている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	面会は自由に来ていただいており、夜間希望された場合は、チャイムでカギをお開けしている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎	夕涼み会の参加を書面でおねがいしている。(送付)	◎		◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	面会時には、都度状態のお知らせをし、月初めには状況連絡を送付、年に4回の季刊誌も発行し、各行事や、外出の様子などお知らせしている。	◎		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	状態に変化があれば、連絡し、家族からの問い合わせも随時受け付けている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会時に、話し合う機会があれば、認知症についての説明をし、徐々に知識と関心を持っていただけるよう働きかけている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	行事や、利用者の私物の購入などについては報告しているが、職員の勤務情報などは報告していないが状況連絡で担当者変更などはお知らせしている。	x		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	以前は、家族参加の日帰り温泉なども行っていた。現在は、夕涼み会や、施設敷地内でのお花見への参加をお願いしている。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入所時にリスクについての説明をし(管理者)、理解していただいている。				
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時は、管理者が説明を行い、理解を得ている。変更があれば、変更書類を送付し、署名、捺印していただき、返送していただいている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	家族の希望があれば、退去後の施設や医療機関を紹介、受け入れまで支援している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	重要事項の説明書類を新しいものにし、説明し、了解を得ている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	2ヶ月に1度運営推進委員会を開催し、事業所の説明や問題点や困難事例、認知症への理解を深めている。		◎		事業所開設以降に周辺の住民が増えており、管理者は地域の理解や認識が深まっていると感じている。自治会にも加入し、事業所の餅つきには自治会から約10名の手伝いが手伝ってくれるなど、交流を図っている。地域には高齢者も多く、70歳以上の独居者には事業所からつきたての餅を配り、大変喜ばれている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	○	以前は近隣を散歩し、挨拶を交わしたり、ご近所の方から自作の野菜をいただくこともあった。施設の夕涼み会のテラスを配り、参加していただいている。餅つきなどにも参加していただき地元自治会高齢者への配布も行っている		○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	運営推進委員会を通じて、公民館の方、婦人会の方々の協力を得ることが増えている。				
		d	地域の人気が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	○	パン屋さんの訪問販売や、夏祭りなどで、地域の方が参加できる機会がある。また、お孫さんと散歩がてら玄関ポーチで休憩される方もいる。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	散歩の途中に玄関ポーチで休まれる方もいる。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	△	行事の手伝いに参加してくださる方はいるが、日常の支援は職員と家族のみでしている。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	地域にできた蕎麦屋に行ったり、紫陽花まつりに参加した事がある。利用者全員ではない。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	○	運営推進委員会を通じて、公民館の方、婦人会の方々の協力を得ることが増えている。公民館、自治会の方との関係を徐々に築いている。				
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	地元自治会だけではなく校区の方も参加してくれている。	×		○	運営推進会議には公民館長や民生委員、家族など20名以上の参加がある。会議では、利用者の生活状況や評価への取組み等を報告している。また、会議の参加者と意見交換を行い、出された意見をサービス向上に反映させている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	○	利用者、事業所の状況、行事ごとの報告はしている。外部評価の時期にはその内容も報告している。			◎	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	参加していただいた方からは様々な意見や情報を出していただいている。開催後議事録も市へ提出している。		◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	メンバーは特に変わりはない。開催日に次回の日程の都合を伺っている。		◎		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	△	要望があれば見ることはできるが、公表はしていない。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念は職員が見やすいところに掲示、再確認できるようにしている				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	面会時には目につくところに掲示し理念の下に説明書きも行っている	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	基本的に参加の意向があれば受けている。しかし日中は人数に厳しく参加させていない				代表者は併設のデイサービスに勤務しており、定期的に事業所に来て管理者と情報共有をしている。運営推進会議や職員の忘年会などにも代表者は参加している。職員のキャリアアップとして、研修の機会を確保しており、今年度も3名が実務者研修を修了し、介護福祉士国家試験を受験している。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	専門知識向上のため資格取得や研修を進めている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	勤務状況を把握し管理者が勤務形態など条件なども提言している。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	愛媛県地域密着型サービスに加入し全国大会などにも参加できるようにしている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	時にはここで話したりグループライン等で情報の共有も行っている	○	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	ユニット会の議題にしたり、研修へ参加したりして理解に努めている。				方言がきつく聞こえる職員もいるため、与える印象などにも注意して、管理者は日頃から「誰が聞いても不快感のない声かけをするように心がけてほしい」と職員に伝えている。3か月ごとに職員間で虐待や身体拘束に関する話し合い、何が虐待や身体拘束にあたるか具体的な事例を学び、対応手順などを理解している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	何気ない日常の会話や方言がいけないこともあるかとは話している				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃ごされることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	対応については毎月の会で見直しあっている。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	管理者が定期的には代表者と話し合い現情報告して検討している。				
44	身体拘束をしない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	身体拘束についての勉強会で理解している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	状況に照らし合わせ、勉強会で話し合っている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	要望があれば、都度、拘束、施設へのリスクについて説明し、了解を得ている。				

愛媛県グループホーム竹トンボ

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する 制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	研修で学んだ職員もいるが、全ての理解は難しい。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	必要な利用者、家族に制度を説明し、相談に乗っている。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	必要であれば専門機関へ相談することができる。				
46	急変や事故発生時の 備え・事故防止の 取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	急変時に対するマニュアルを作成しており、職員がいつでも見れるようにしている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	×	定位的な訓練はしていない。今後予定したい。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットを提出し、職員全員が確認、再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者の状態から今後を予測した対応に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と 改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	意見箱を設置しているが、あまり活用されていない。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	意見箱に寄せられた苦情にはユニット会で速やかに対応している。 が、数少ない。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	△	ユニット会で職員に周知、改善に努めている。前例は少ない				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	家族や、利用者には定期的に個々に要望を聞き、サービス作成に取り入れている。			○	利用者には日常生活の中で要望を聞いている。家族には来訪時に必ず職員から声をかけ、「病院受診時など職員に同行をお願いしたい」といった要望が出されている。職員は管理者に対して設備面や要望など細かなことでも何でも伝えやすく、気軽に話しかけやすいと感じている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	要望は面会時に聞き取りしており、苦情があれば、意見箱の利用もできる。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	事業所の意見箱の利用や、面会時の聞き取りなどで、要望に耳を傾けている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	管理者が個々の相談や会などで議題にあがった際は代表者へ相談を行っている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	個々の悩みや希望などは個室で話をし検討している			○	

愛媛県グループホーム竹トンボ

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	評価を行うことで取り組んでいることの再確認ができています。				外部評価の自己評価は大変であるが、管理者と職員は「日頃から事業所で行うサービスやケアなどの見直しになっている」と感じている。運営推進会議の際には評価結果と目標達成計画を報告している。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	月1回のユニット会で議題にも上げサービス向上への検討をする				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	職員で意見を出し合い、実現可能な目標にしている。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	評価結果と目標達成計画を運営推進会で報告している	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	ユニット会で成果を確認しあっている。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	マニュアル作成しているが様々な訓練は実施できていない。				年2回、消防署の協力のもと、併設のデイサービスと一緒に火災避難訓練を実施し、夜間を想定した訓練も行っている。地域との合同の避難訓練は実施しておらず、災害時対応について家族も不安を感じているため、地域住民が参加した訓練や合同での訓練実施の検討など、話し合いの機会を作り、協力・支援体制を確保して欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年2回の訓練時に消防署の方の立ち会いのもと都度想定を変更し、訓練を行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火設備は定期的に点検が行われている。非常食、備品は備えている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署の立ち会いで訓練を行っているが、地域の方の参加はない。自治会の防災組織には加入している。	×	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	△	消防関係担当者が講習を受けている。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	○	運営推進委員会で認知症の理解を深めている。年4回の季刊誌を発行、公民館に置いてもらうなど、啓発に取り組んでいる。				管理者は地域住民からの相談があれば支援する意向を持っているが、併設する居宅介護支援事業所やデイサービスが窓口となって対応している。市担当者や他の関係機関とは運営推進会議の開催などを通して連携を密にしている。事業所では学生のインターンシップなどの受入れも行っている。自治会にも参加し、双方のイベントで交流を図っている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	相談があれば受け付けている。		△	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	○	夏祭りやお餅つきを開催、盆踊りにはグループの方が参加してくださる。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	学生のインターンシップの受け入れをしている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	○	運営推進委員会で市役所の方から情報を得たり、管理者は他事業所との情報交換をしている。市とは定期的なメールなどで情報交換している。			○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

Ⅰ.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

Ⅱ.家族との支え合い

Ⅲ.地域との支え合い

Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和2年2月21日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 11名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	6名	

※事業所記入

事業所番号	3870501628
事業所名	グループホーム 竹トンボ
(ユニット名)	菜の花
記入者(管理者)	
氏 名	横川 崇 妻鳥 由佳
自己評価作成日	2年 2月 5日

【事業所理念】 『日々是好日』どんなにしょんどの日も頑張って生活をして、今日も良い日にしようと思いながら頑張ると明日も良い日がやってくる。 地域との連携を密にし、地域に溶け込んだ施設を目指します。	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 小高い山に立地する竹林に隣接の平屋建ての事業所の近くには新興住宅が立ち並んでいる。同じ敷地内には居宅介護支援事業所とデイサービスが併設している。中庭を囲む回廊式の建物の事業所は、玄関を入ると左右にユニットがある。玄関側はユニットを隔てる扉がなく、自由に行き来できるようになっている。家庭的な雰囲気の中で、その人らしい自分の時間を過ごしてもらえよう、利用者一人ひとりの生活歴や性格、思いを把握し、職員全員で考え支援している。管理者は職員の専門性をより高めることが利用者の生活の質の向上につながるものと考えており、職員数に余裕はないが勤務体制を互いに協力・調整をしながら、今年度は3名が実務者研修を修了し、介護福祉士の国家試験を受験している。
--	--------------------------	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	日常的にどのような生活がしたいかを話している自分の気持ちを伝えづらい方は、他の入所者の方と一緒に会話する中で気持ちを読み取れるようにしている	○		○	生活のそれぞれの場面で職員は利用者に思いを聞いている。また、来訪時などに家族から意向等を聞き取り、担当職員とも相談しながら希望や意向の把握に努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	把握が困難な方は、元気があった時の状態を参考に、今の状態も視野に入れながら、本人の気持ちを考えている				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	入所前に家族から生活環境や性格や好きなこと等聞いて、面会時にも現状と入所前のことも話して本人の気持ちをお互いに考えている				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	個別に毎日チェックする表を作っており、それによって全職員が把握できるようにしている				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	自分だけの考えや価値観で判断するのではなく、相手の気持ちを考えるようにしている 他の職員同士でも話し合い偏った考えにならないよう気を付けている				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所前、入所時のアセスメントで本人の生活歴や趣味、好きなこと、現在と過去での好きなことなどの変化、利用しているサービスでの様子を聞いている			◎	重度化している利用者にも、これまでの入居生活の中で利用者や家族から希望や思いを聞いて職員間で把握している。信仰を重んじる利用者に対しても、思いを大切にしながら支援している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	日々の生活の中で本人ができることを把握し、少しの手伝いでできることがあれば一緒に行って、できることを増やせるようにしている				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	本人と接する中で、不安になっていることを態度で気づいて、その不安を取り除き、安心して暮らせるようにしている				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	本人が不安になった時にその原因となることを回避できるように早めの対応、または最小限に抑えられるようにしている				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	排泄チェック表や食事チェック表、個人記録表に普段の記録以外に経演歌があった時などの記録を書き、ケース記録で皆が分かるようにしている				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	事前に聞いていた本人や家族の思いも含めて、担当者、管理者と事前に話し合い、改めてユニット会で検討している			○	担当職員をはじめ関わるのあるすべての職員は、日々の支援で利用者の気づいたことをその都度、管理者や介護支援専門員に報告している。月1回のユニット会議で「ケアプラン行動チェック表」を確認しながら、職員は利用者のできることを応援する気持ちで意見を出し合いながら支援している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	本人にとって今一番必要なことが、ADLやQOLの向上なのか、危険を回避すること等か本人の思いも汲み取って検討している				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	ユニット会にて担当者だけでなく、多くの職員の意見も取り入れて、本人に一番求められていることを見出している				

愛媛県グループホーム竹トンボ

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	本人や家族の意向を聞いて、反映している 思いを伝えられない方にはどうしたら穏やかに生活できるか考え反映している	/	/	/	ユニットごとに介護支援専門員を配置し、利用者の情報の把握に努めている。担当職員から介護支援専門員に利用者の状態やできること、できなかったことなどの情報がよく伝えられている。重度の利用者の思いも職員は日々の暮らしの中から推しはかりながら、ユニット会では職員全員で意見を出し合い、介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	本人にどのような生活を送りたいか、家族には気になっていることなどを聞き、職員同士でも話し合い検討している	○	/	◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	以前に好んでしていたことや好きな食べ物や物など、取り入れることは行い、安心した生活を送れるようにしている	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	定期的に家族と受診や外出等も計画にしている	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	ユニット会にて介護計画を話し合い、各自記録に残している	/	/	◎	ユニット会の記録はファイルにまとめ、職員の誰も見られるようにしている。介護計画の内容に沿った支援の提供や利用者個別の目標が達成できているかなど、職員は「ケアプラン行動チェック表」に毎日記録しているが、1日1回のチェックや○×評価、状況把握だけでは不十分な内容となっている。今後はより確実な利用者の状況把握や一人ひとりに見合った目標設定につながるよう、様式を見直すなどの取組みを望みたい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	ケアプラン行動チェック表にその日の担当者が毎日チェックを行い、変化があった場合には記録し、皆で確認できるようにしている	/	/	△	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	個人記録表、ケアプラン行動チェック表、生活記録により日々の様子を細かく記録している	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	職員が気づき感じたことや試みたこと等生活記録に残し、申し送りしている	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	定期的に変化がないか見直し、担当者や管理者とも話してからユニット会でも話し合っている	/	/	◎	介護計画は3か月ごとの見直しを基本としている。利用者の変化がある場合には、その都度すぐに見直し変更をしている。高齢化で状態を確認しても変化のない利用者も多く、心身等の現状維持が目標となっている場合もあるが、軽微な変更の場合もユニット会で職員全員で話し合いながら、期間の見直しや実施目標を追加するなど、新たな介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	ケアプラン行動チェック表に基づいて月に一回は各担当者が評価を行っている	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	現状に変化があったり本人の意向が変わった場合には、随時担当者、管理者と話しユニット会で新たに検討している	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	毎月各ユニットで3か月に一回フロア会を行い現状の把握と検討、各々の意見を述べられるようにしている	/	/	◎	月1回ユニット会を開催し、利用者一人ひとりのカンファレンスを実施している。会議に参加ができない職員にも事前に気づきなど聞き、ユニット会で協議をしており、後日職員は会議内容を必ず確認するようにしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	意見が出しやすいように、事前に話すことを決めておき、そこから話が広がっていくようにしている	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	日勤が終わる時間、パート出勤者が多い日を選び用事のある人以外は全員参加している	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	事前に話す内容を伝え、意見を聞いておき、会が終わった後に議事録を渡し説明を行っている	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	月間予定表のホワイトボード、ニヶ月カレンダー、連絡ノート、面会簿に連絡事項を書いて全員が分かるようにしている	/	/	◎	情報伝達は口頭での申し送りと申し送りノートに記載するほか、職員はすぐに確認できるようにホワイトボードも活用している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	朝の申し送りで、ホワイトボードの予定と連絡ノートの連絡事項も伝え漏れの内容にしている 夕の申し送りでは夜勤帯だけでなく日勤帯の状況も申し送っている	◎	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	ぬり絵、折り紙、パズル、読書など自分が好きなことを選んでもらっている レクリエーションは皆で楽しめるようなものを考えて行っている				日中に利用者はリビングでテレビを見たりパズルをしたりするなど、思い思いに過ごしている。一人ひとりが希望する呼び方で利用者呼びかけ、優しい言い方や親しみを込めた声かけなど、利用者に合わせた対応するよう工夫をしている。月1回併設のデイサービスでボランティアのマンドリンとオカリナの演奏会があり、希望者は参加を楽しみにしている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	ぬり絵、パズル、本などは自分がしたい物や読みたい物を選んでもらい、おやつや飲み物など好きなものを選ぶようにしている			○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	出来ることを見極めて、それぞれ洗濯物干し、洗濯物たたみ、洗い物、調理の下ごしらえなどおこなってもらい、少しの援助で出来ることがあれば援助してやりがいがあるようにしている				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	入浴時羞恥心がある人には他の人が入っていないときに入ってもらったり、一番風呂が好きな人は一番に入ってもらっている 朝苦手な人は少し遅めに、夜テレビが観たい人は可能な限りは観てもらっている				
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	どんな場面で利用者が嬉しそうにしたり、活き活きしているのかを把握して、笑顔になれるようにコミュニケーションをとっている			○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	声かけに対してや体を触ったときの反応などを見て安心していいのか、不安になっているのかを気にかけ、不安の原因を取り除けるように対応する				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	フロア会にて対応や言葉遣いについて定期的に行い、常に意識することを忘れないようにしている	○	○	○	職員は利用者一人ひとりに合った対応を心がけている。リビング等でトイレ誘導をする場合にはトイレという言葉は使わず、職員から「〇〇に行きませんか」と声をかけ、途中でトイレに立ち寄れる配慮をしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	トイレ誘導は直ぐそこまで一緒に歩いてもらってもいいですか？等と散歩に行くように声けている			○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら助助を行っている。	○	本人の近くで声かけをしたり、耳の遠い人には肩を叩いて呼んでから声かけを行っている				
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	本人が居室にいない場合には、〇〇の用事で入らせてくださいと声かけてから入らせてもらっている			○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	就職時に個人情報についての説明を受けている				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	利用者が出来ることを職員を助けてほしいと手伝ってもらい感謝の言葉を常に言っている 昔の話をしている時には分からないこともあり教えてもらっている				他の利用者のことがとても気になる利用者には、リビングの席をさりげなく替えるなど、職員は配慮して対応している。職員は利用者一人ひとりがやりたいこと、できることをしてもらえよう支援している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者がお互いに助け合えるように、コミュニケーションをとれるよういしきしている				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	お互いに会話が弾むような作業や話題を提供したり、皆で出来るトランプは世話役の人が皆をまとめてくれており、職員もついて苦手な人にも気楽に参加できるよう努めている			○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	利用者同士の様子を観察し、トラブルになりそう時には間に入り未然に防げるようにする 場合によっては席替えなどをし、お互いに和やかに過ごせるように対応する				

愛媛県グループホーム竹トンボ

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入所前、入所時のアセスメントで生活歴を聞き、面会時等にも聞き取りきれなかったことを聞いて情報を増やしていている				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	家族に本人の趣味や交友関係、生活歴、現在の様子などを聞いて、普段の生活でも本人から話を聞いている				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	自宅に帰りたい人には家族が定期的に家に連れて帰り安心出来るように、気分転換にと妹さんが天気の良い日にドライブに連れて行ってくれる方もいる				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	来られた時に一緒にお茶を飲んだり、レクリエーションや体操をしている時には一緒に参加して楽しまっている				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	天気の良い日は、中庭で両ユニット一緒に日光浴をしてレクリエーションをしたり、デイの周りや分譲地を散歩している 本人の希望に沿って可能な限り定期的にドライブや買い物と一緒にやっている	○	△	○	病院受診や個人的な外出には、家族の協力を得ている。以前は敷地内や近所まで外出していたが、坂道があることと合わせて外歩きが難しくなってきた利用者も多いため、現在は事業所内を散歩している。季節に応じて、職員はぶどう狩りやお花見、夏祭りなどの行事を企画し、利用者の体調を考慮しながら外出できるよう支援している。寒い時期には外出することが減る傾向にあるが、併設のデイサービスにも出かけてたり、車から降りることは難しいが気分転換にドライブに出かけたりしている。天気の良い日には、重度の利用者も中庭に出て日光浴をしている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	外出支援は職員又は家族に依頼することが多い				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	重度の利用者も行事の参加をし、中庭で日光浴をしている				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	家族の協力のある人は毎月出かけている ぶどう狩りや苺狩りなどの行事は皆が行けるよう職員がボランティアで参加している				
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	職員は一人ひとりの思いを知って、その人の状態によって対応している 排便がない日が続いている人は、食事の進みが悪くなっている等				開所当初からの利用者は高齢となり以前のような意欲はなくなってきたが、職員からの声かけや見守りにより、マイペースで過ごせるよう支援している。リハビリは職員から声をかけ、その日の状態で無理のない程度でしてもらえるよう支援している。事業所内にあるマッサージ器も、職員の見守りのもと利用者は自由に使用することができる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	一人ひとりの毎日の様子を観察して、レベルの悪化防止、維持、向上が出来るよう毎日、足上げ、散歩、ラジオ体操、音楽体操などを行っている				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	出来るだけ本人が行えるように、出来ることはしてもらっている 少し手助けしたり、声かけを行うと出来る人もいる 皆が何かしらしているようにして孤立感を持たないようにしている	◎		○	
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	基本情報や本人の希望を踏まえ、普段の生活の中で本人が楽しんでいるか、楽しんでなければ楽しんでもらえることを検討して行っている				職員はやってくれそうなことを利用者に提示しているが、無理強いはいしない支援をしている。すべての利用者は女性であり、洗濯物干しや畳み、食事の準備、下ごしらえなどを手伝ってもらっている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	集団で行う手遊び歌や音楽体操では皆が出来そうなことを選んで 新しい歌や手遊びでも何度かすることで皆楽しみながら覚えられている	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	地域の文化祭やお祭り集会に出向くことはある 地域の方が夕涼み会やお餅つきに参加してくれる				

愛媛県グループホーム竹トンボ

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしやれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしやれについて把握している。	◎	本人の衣類や持ち物で、その方の好み分かるが、普段の鏡の前での様子でも身だしなみを気にするか等が分かる				着替えや整容など、利用者自身でできることはしてもらっている。洋服選びなどの身だしなみは、利用者の状態に合わせて職員から助言するなどの支援をしている。骨粗鬆症が進んでいる重度の利用者の衣服には、着脱しやすいように職員がマジックテープの仕様に替えるなど、負担を少しでも減らせるよう工夫している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	散髪の際は、どのような髪形にしたいか、あまり短く切りたくない人等希望に添えるようにしている				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	自己決定がしにくい方には、一緒にどちらか二択等選びやすいようにしてりして少しでも自分で考えられるようにしている				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	本人が持っている物から一緒に選んだり、外出に合わせて家族の方が持ってこられる時もある				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	トイレの後等、服が乱れている時などがあるので直ぐに声かけてさりげなく直したりして他の人に目につかないように気を付けている	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	二ヵ月に一度定期的に美容室から散髪に来てくれる 家族が付き添って行きつけの美容室に行く方もいる				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	重度な方も散髪は定期的に職員が行っている 衣類も着脱しやすく本人に負担がかからないように改良している			◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	高齢者に必要な栄養や、不足によって起こることを学んでいる				利用者の好みや食べたい物、飲み物などを聞き、内容によっては選択できるようにしている。献立は管理者が立て、一人暮らしだった利用者の希望でインスタントの麺類を選択したり、旬の食材を取り入れたりする工夫をしている。食器類は利用者の使い慣れたものを持ち込んでもらったり、使いやすい物を事業所で準備したりしている。利用者は自分の箸や茶碗、湯のみを認識して使用している。職員も食事を一緒にしながら、利用者の食事介助や見守りを行っている。重度の利用者には、ムース食などの形態に変更したり、好物のケーキや餅なども摂取できるよう提供方法を工夫している。調理担当職員が利用者の食べやすい物など提供方法を話し合い、献立に取り入れている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	季節ごとの献立や希望、皆が好んで食べやすいそうなんだてにしたり、牛蒡のさがき、もやしひげ取り等お茶葉入れ等簡単にできる作業を行っている			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	その人に合った手伝いをしてもらっている 食器の片づけやテーブル拭きは自分で進んでされる方が多い				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	入所前に家族、本人に聞いて把握しているが、食事中にも様子を見て食べ残しや進みが悪い方には、調理法や味等工夫している				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	季節のものを取り入れ、畑で育てている野菜を使ったメニュー作りをしている 利用者が食べたいものを聞いてメニューに入れる時もある			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いどりや器の工夫等)	◎	ご飯を柔らかめに炊いたり、食材も軟らかく煮るなどしている 食べにくい物食べやすい大きさにし、彩りが少ない物には少し足したりして彩りよくしている				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	その人に合った大きさ、持ちやすさの茶碗やコップ、箸やコップなどいくつかの中から好みのものを選んでもらって使用している			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	食事中はテレビを消し、アコースティックギターやオルゴールなどのサウンドの曲をかけ、各テーブルに職員が座り、食事が進まない人や掻き込んで食べる人、食べこぼしなどの対応を行っている			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	重度な方は、色々な形状の食事を試し、食べ具合も観察しながらその人の好みの味を把握して提供している	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	月に1度体重測定をして、その増減によって食事の量を変更している 水分量が少ない人にはこまめの水分補給や味に変化を付けたり、ゼリーなどになっている				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事量が少ない人には、その人の好みの味にしたり、ふりかけや漬物があったらご飯を食べる人には出したりしている				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	ユニット会で食事が減っている人や食べ具合等を話し合い、食事内容を検討している			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	買い物に行った時に、買った日付を書いている 賞味期限の早い物を一番上に置き、期限が近付いたら冷蔵庫のホワイトボードに記入し使い忘れないようにしている				

愛媛県グループホーム竹トボ

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	フロア会で高齢者の機能の低下やリスクについて話し合っている				毎食後、職員は口腔ケアを積極的に行い、利用者の口腔内の健康状況を把握している。利用者も嫌がることなく進んで歯みがきをしており、1日に複数回歯をみがいたり、ガーゼを使用したりする利用者もいる。自分でできない利用者には職員が介助をしている。義歯の調整などは訪問歯科を利用している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	毎食後の口腔ケアの時や食事の時の食べ具合などを観察し、変化に気を付けている			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科往診の際に口腔ケアの支持を受けたことを行う 定期的に日本歯科協会から口腔ケアについてのプリントを配布してくれている				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎食後きちんと義歯を外して洗うよう声かけと確認を行い、毎日夕食後に消毒している				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。 (歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	毎食後の口腔ケア時に自分できちんと出来ない人には横に付いて手順を一つ一つ声かけし、義歯が洗えているかを確認している			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	本人からの訴えや、食事中の様子を見て食事の進み具合が悪い時等口の中のと義歯の確認を行い、異常がある場合には家族に連絡したうえで歯科往診を依頼している				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	失禁したからと直ぐにオムツを使用せずに早めの声かけや失禁用布パンツ等を使用し自立できるようにしている				おむつメーカーによる研修を事業所で行い、個別に適したおむつやパンツを試用するなど、職員は工夫しながらより良いケアを目指している。可能な限り布パンツを使用し、職員は誘導を行いトイレで排泄できるよう支援している。排泄チェック表で確認しながら、3日間排便がない利用者には、医師に薬を処方してもらい調整しながら支援している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	ユニット会で便秘の話をして、便秘をしないようにする改善策を考えて行っている				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄チェック表により、24時間のパターンと回数や量状態が分かるようにしている				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	本人が気持ちよくトイレを使用できるようその人に合ったオムツや布パンツなどを検討している 失禁回数が減ってきたら違う物に変更したり声かけや確認を多くしてオムツを減らす試みをしている	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	水分や運動を増やしたり、食事内容を見直して排便コントロールを行っている				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄チェック表により、失敗した時間帯や間隔が分かるため、早めの声かけと本人の様子を見て誘導を行っている				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	家族に状態の説明とこのオムツを使用して本人が不快に感じないよう対応することを理解してもらってから使用している				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	乾燥肌の人には肌着の生地を綿にする等その人に合ったものを使用している				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	起床時に冷たい牛乳を飲んだり、ヒジキなどの海藻を食事に取り入れている 散歩や体操で体を動かしている				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	◎	一番風呂が好きな人には一番風呂、熱めのお湯が好きな人には職員が付いて、体に負担がかからない程度の適温に調節して、気持ちよく入れるようにしている	◎		◎	行事などで入浴できない日があっても問題ないように、週5回入浴できるよう支援している。本人の希望で2日に1回の利用者もいるが、ほとんどが週5回入浴している。管理者は毎日のように入浴する機会があれば、楽しみな日課として習慣化することを考えている。一番風呂が良い利用者や熱めの湯が好きな利用者など、職員は好みにできる限り浴えるようにしている。重度の利用者には、週2回リクライニングのシャワーチェアを使用して入浴している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	仲の良い人同士が話をしてリラックスして入浴できるよう入る順番などを考えている				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	自分で出来るところは自分でしてもらい、少しの援助で安心して入浴出来るようにしている				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	声をかける職員を変えてみたり、声かけの仕方をつどかんがえている 時間帯を変えたりして本人が気持ちよく入れるようにしている				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前の状態や本人の訴えも踏まえ、状態が不安定な人には入浴前にバイタルチェックを行っている				

愛媛県グループホーム竹トンボ

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	生活記録やユニット会で夜勤者だけでなくパート勤務の職員も把握している				排泄のことが気になり夜間トイレにこもってしまう利用者などは、日中に傾眠傾向が見られるため、医師に相談し睡眠導入剤を使用する場合もある。新しく入居した利用者には、赤外線センサーを使用して睡眠パターンを確認させてもらい、生活に慣れると取り外している。現在のところ、夜間は事業所全体が落ち着いている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	日中の傾眠時間を減らし、夜間に眠れるように作業やレクリエーションなど本人が興味があるものを採し活動時間を増やしている				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	本人が興味わいてずっと続けられるようなことをいろいろ試して行っている 状態が変わらない場合は、医師と相談しながら薬の使用を調節している			◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	自室にて自由に休めるが、職員が様子を見て声かけを行っている				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	本人希望により、自由に電話ができる 携帯を持っている方もいる				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	年賀状や暑中見舞いは字が書けない人にも職員が書きたい言葉を聞いて代筆したり、少しでも字が書ける人には見本を書いて自分で書けるようにしている				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	いつでも希望すればこちらから電話をかけている				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	居室に飾って、家族にも分かるようにしている				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	本人が電話をすることによって安心して穏やかに過ごせることを理解してもらっていつでも電話をかけられるようにしている				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	◎	自分でお金を使うことの大切さは理解しているが、入所前からお金の管理をしていない人が多い				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	家族ととの外出時に買い物に行ったり、グループホームの買い物や個人の買い物のときに一緒に行っている				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	利用者と一緒に買い物に行ったときには、可能な限り好きなものを選んでもらっている				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	家族ととの外出時に一緒に買い物できるようにお願いしている				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	必要なものがあるときには家族に依頼し、消耗品などは立て替えている				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	入所時にお金の管理については話している 事前に電話し承諾を得て立て替えている				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	状態は変化していくので、都度相談している。本人やご家族のあった場合は相談し検討するようになっている。	◎		○	通院やお墓参りなど家族が対応しているが、告別式への参列など緊急な場合は、遠方の家族では対応できないため、職員は送迎や介助の支援をしている。

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関周りにプランターを置いて季節の花を植えたり、季節ごとの飾りを行っている	◎	◎	◎	職員が事業所周りの花や畑の世話をきれいにしており、玄関周りも明るく広い造りとなっている。運営推進会議への参加者が散歩の時に事業所に立ち寄り、ゆっくり話をして帰ることもある。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。（天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそごうな設えになっていないか等。）	◎	利用者が作ったものを飾ったり、季節ごとの飾りを行っている 電気の明るさにも気を付けて温かい雰囲気を作れるようにしている。在るべき物は在るべき場所に置くようにしている。	○	○	○	広いリビングで利用者は、パズルや折り紙づくりをしたり、テレビを見たり、畳の座敷に腰掛など、落ち着いた空間の中で自由に過ごしている。リビングに面した廊下には手すりも多く設置され、利用者のペースでゆっくりと歩く練習をする様子が見られた。電化キッチンリビング内にあり、食事作りの様子や匂いが感じられ、食事を楽しみに待つことができる。トイレと洗面台などは専門業者が入り清掃してもらっているが、居室は職員が掃除をしている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日の掃除と場所によっては定期的に掃除する日を決めている 光も気になる場合はカーテンやブラインド等で調節している				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	玄関のプランターには花を植え、畑には季節の食物を植えて散歩しながら見ることができる 毎月のちぎり絵では季節ごとの絵をボランティアの方が考えてくれている			◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	ユニット関係なく散歩に来られて一緒に話をしたり、レクリエーションなどをしたりと自由にさせている				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	常にプライバシーには気を付けて扉は閉めている				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	居室の中はご自宅なので基本的には自由に物を置いて頂きオリジナル空間で過ごして頂いています。	◎		◎	居室にはテレビやソファ、家族の写真、仏壇など、自由に好きな物を持ち込むことができる。畳の居室もあり、利用者の安全に配慮している。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	自身の部屋が分かるように表れと写真、自身が作った作品を居室前に貼っている			◎	トイレの場所が分かりにくい利用者のために大きく表示するなど、どこからでも分かるように工夫をしている。リビングと廊下が一体化しており、歩行器や車いすでも安全に移動できる広いスペースとなっている。事業所内は自由に移動でき、利用者が疲れたら休めるソファが玄関や各所に設置されており、安全に何気なく身体を動かすことができるように配慮することで自立支援につながっている。両方のユニットから中庭に出入りすることができ、天気の良い日には、それぞれのユニットの利用者同士の交流の場となっている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	トイレの場所が覚えにくい人には目立たないよう居室内のドアにトイレへの方向が分かるように貼っている				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。（ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	○	リビングには新聞や本が置いてあり、自由に読めるようになっている				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟）の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等）	◎	鍵をかけたことによって起こることなどをフロア会などで話して、すべての出入り口は開錠している	◎	◎	◎	管理者や職員は鍵をかけるリスクを理解して、玄関の施錠はしていない。職員は利用者が自宅から自由に過ごせるように感じられるよう配慮し、外出したい時には付き添って対応している。安全のため施錠を希望する家族もいるが、職員は丁寧に説明をして理解を得られるよう努めている。玄関にはセンサーを設置し、来客や利用者の出入りを把握できるようにしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	施錠を望む家族に対しては、鍵をかけないことの説明を行いセンサーなどの設置を提案している				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している（外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等）。	◎	玄関にはセンサーを設置し、直ぐに職員が対応している 利用者の様子も把握して一人で出でしまうことのないようにしている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入所時の情報提供を見て把握し、事務所には病歴を書いたものを貼り、薬のしおりをまとめて閲覧できるようにしている				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	毎日の申し送りと利用者の様子観察を行い、変化があるときには細かく生活記録に記録している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	気になることがあれば、先生に聞き、対応を聞いている場合により受診を行っている				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	入所時に主治医、かかっている病院、緊急時の病院を開き、月1回は職員が受診に行き、複数の病院にかかっている場合は、家族にも協力してもらっている	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	かかりつけ医を継続して受診できるようにしている 面会時や毎月の状況連絡により受診結果を報告している				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	職員が受診に行くときは、状態により事前の報告と受診結果は面会時や毎月の状況連絡にて報告場合によっては電話連絡を行っている				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	病院に情報提供を行い気を付けなくてはいけないこと等細かいことを伝えている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院時には定期的に訪問して看護師等と状態の説明をしてもらい生活記録に記入している				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	受診時に状態により入院の相談を行っている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	受診時に状態によっての対応の仕方や今後のこと等都度相談している				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	近くの医院に相談できるようにしている				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	状態の変化に気づいたときは管理者に相談し早めの受診を行っている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	受診の際には、連絡ノートに薬の変更などがあった時には細かく書き、薬のしおりをはファイルに綴じ直ぐに見れるようにしている				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	隔日や日によって飲み方が変わる場合は分かりやすいように表示し飲み忘れのないようにしている				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	服薬が飲みにくい人にはOD錠ににしてもらったり、粉にして飲みやすいものと一緒に服薬したりしている				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	服薬によっての変化などを生活記録に記録し、受診時には状態を医師や看護師に説明している				

愛媛県グループホーム竹トンボ

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	状態の変化に伴い都度家族に意向を聞き、今後の方針を決めている				利用者や家族から看取り支援の希望があった場合には、主治医と家族の協力を得て、管理者はできる限り事業所で看たいと考えているが、夜間の急変時や他の利用者への対応もあり、現在の職員数で限界があり、現状では対応することが難しい実情である。今まで事業所では看取りの経験がなく、職員にも不安がある。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	重度化した場合には、ユニット会での話し合いと家族、医師とも話し合いながら方針を決めている	△		△	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	医療関係者と話し合い、職員の限界を見極めてくれている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	入所時に説明は行っているが、状態の変化により都度説明話し合って決めている				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	重度になる前に家族と本人の気持ちを聞き話し合っておく 医師とも相談しながらより良い支援ができるよう対応している				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の思いを聞きとれるようにコミュニケーションを図っている				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	フロア会で定期的に話し合い学んでいる				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	感染症になった場合には、隔離、消毒などを徹底し、日ごろからハイター消毒、マスクの使用、うがい、手洗い、消毒で予防している				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	ニュースや新聞、個々の情報網、インターネットなどで感染症に関する情報を得ている。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	うがい、手洗い、手指消毒、ハイター消毒、マスク使用にて予防している				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	玄関には消毒液とマスクを置き来訪者に協力を得ている 職員は手洗い、消毒を都度行っている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	家族の面会時等に本人の日ごろの様子、思いを伝え一緒に本人を支えられるようお願いしている				家族には事業所行事などに参加を呼びかけ、職員は利用者と一緒に過ごす機会を作っている。来訪の機会が少ない家族を含め、すべての家族に月1回利用者の生活状況のお知らせを送るほか、年4回季刊誌を送付している。夏祭りや餅つき、お花見なども文書で案内しているが、参加する家族は固定化している。家族会の設立も提案したが、家族にもそれぞれの事情があるため、実現には至っていない。運営推進会議では運営上の事柄や担当職員の変更など報告しているが、十分に伝わっていない様子が窺えるため、職員は家族への伝え方を工夫して欲しい。家族の来訪時には職員から声をかけ、居室で要望や相談を聞いている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	面会時には、ゆっくりと居室でくつろいでもらえるように椅子とお茶等を出している				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎	面会時に、散歩をしたり体操やトランプ等を一緒にされている	◎		◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月の状況連絡で様子や行事等を細かく報告、季節ごとに季刊誌を配布し日ごろの様子も写真で分かるようにしている	◎		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	◎	状態の変化を細かく報告し今後の対応や心配されること等を報告している				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	帰宅願望が強い方には、いつでも家族に電話をかけられるよう対応し、家族も協力してくれている				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得ようとしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	状況連絡や季刊誌に行事や職員の担当変更等はお知らせしている	×		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	お花見や夕涼み会で家族同士で話されることがある				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	入所時に転倒などのリスクは事前に話しているが、状態の変化に伴いその都度説明を行っている				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	面会時に本人の様子以外に家族のことも聞いて話しやすい関係を築いている			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	文章により伝えて、面会時にも説明している				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	長期入院や状態悪化した場合に特養申し込みの説明や手続きの支援を行っている				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約時には細かく説明し同意をもらっている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	2ヶ月に1度運営推進委員会を開催し、事業所の説明や問題点や困難事例、認知症への理解を深めている。		◎		事業所開設以降に周辺の住民が増えており、管理者は地域の理解や認識が深まっていると感じている。自治会にも加入し、事業所の餅つきには自治会から約10名の手伝いが手伝ってくれるなど、交流を図っている。地域には高齢者も多く、70歳以上の独居者には事業所からつきたての餅を配り、大変喜ばれている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	○	以前は近隣を散歩し、挨拶を交わしたり、ご近所の方から自作の野菜をいただくこともあった。施設の夕涼み会のチラシを配り、参加していただいている。餅つきなどにも参加していただき地元自治会高齢者への配布も行っている		○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	運営推進委員会を通じて、公民館の方、婦人会の方々の協力を得ることが増えている。				
		d	地域の人気が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	○	パン屋さんの訪問販売や、夏祭りなどで、地域の方が参加できる機会がある。また、お孫さんと散歩がてら玄関ポーチで休憩される方もいる。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	散歩の途中に玄関ポーチで休まれる方もいる。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	○	行事の手伝いに参加してくださる方はいるが、日常の支援は職員と家族のみでしている。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	地域にできた蕎麦屋に行ったり、紫陽花まつりに参加した事がある。利用者全員ではない。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	○	運営推進委員会を通じて、公民館の方、婦人会の方々の協力を得ることが増えている。公民館、自治会の方との関係を徐々に築いている。				
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	地域の自治会、民生委員、家族、市の職員、デイ、居宅ケアマネの参加がある	×		○	運営推進会議には公民館長や民生委員、家族など20名以上の参加がある。会議では、利用者の生活状況や評価への取組み等を報告している。また、会議の参加者と意見交換を行い、出された意見をサービス向上に反映させている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	◎	入居者の状況、行事について、外部評価の内容、結果を報告し改善していったことを報告している			◎	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	参加者からの意見に応えサービスの向上に活かしている		◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	居宅ケアマネが参加して話をしてくれたり、会の時に次回の出席できる日にちを皆に聞いて決めている		◎		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	△	要望があれば見ることはできるが、公表はしていない。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念は職員が見やすいところに掲示、再確認できるようにしている				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	面会時には目につくところに掲示し理念の下に説明書きもやっている	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	基本的に参加の意向があれば受けている。しかし日中は人数に厳しく参加させていない				代表者は併設のデイサービスに勤務しており、定期的に事業所に来て管理者と情報共有をしている。運営推進会議や職員の忘年会などにも代表者は参加している。職員のキャリアアップとして、研修の機会を確保しており、今年度も3名が実務者研修を修了し、介護福祉士国家試験を受験している。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	専門知識向上のため資格取得や研修を進めている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	勤務状況を把握し管理者が勤務形態など条件なども提言している。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	愛媛県地域密着型サービスに加入し全国大会などにも参加できるようにしている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	時にはここで話したりグループライン等で情報の共有も行っている	○	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	ユニット会の議題にしたり、研修へ参加したりして理解に努めている。				方言がきつく聞こえる職員もいるため、与える印象などにも注意して、管理者は日頃から「誰が聞いても不快感のない声かけをするように心がけてほしい」と職員に伝えている。3か月ごとに職員間で虐待や身体拘束に関する話し合い、何が虐待や身体拘束にあたるか具体的な事例を学び、対応手順などを理解している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	何気ない日常の会話や方言がいけないこともあるかとは話している				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃ごされることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	対応については毎月の会で見直しあっている。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	管理者が定期的には代表者と話し合い現情報告して検討している。				
44	身体拘束をしない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	フロア会で定期的に虐待となる事例などを取り上げて日ごろのケアを気を付けるようにしている				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	フロア会で定期的に勉強したことに気を付けながら、ユニット会でも話し合う機会を作っている				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	家族から施設への要望があっても、センサーや鈴等の対応にし、事業所は身体拘束を行わないことを話し理解してもらっている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する 制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	研修で学んだ職員もいるが、全ての理解は難しい。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	必要な利用者、家族に制度を説明し、相談に乗っている。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	必要であれば専門機関へ相談することができる。				
46	急変や事故発生時の 備え・事故防止の 取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアルを作成し事務所の目に付く場所に貼って、直ぐに対応できるようにしている				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	緊急時の対応は、フロア会で定期的に話したり手順を直ぐに見える所に貼ってある				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	事故やヒヤリハットは報告書にまとめ皆に閲覧しユニット会でも検討して再発防止に努めている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	その人の状態に合わせて起こりうるリスクを話し合っている				
47	苦情への迅速な対応と 改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	意見箱を設置しているが、あまり活用されていない。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	意見箱に寄せられた苦情にはユニット会で速やかに対応している。 が、数少ない。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	△	ユニット会で職員に周知、改善に努めている。前例は少ない				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	家族や、利用者には定期的に個々に要望を聞き、サービス作成に取り入れている。			○	利用者には日常生活の中で要望を聞いている。家族には来訪時に必ず職員から声をかけ、「病院受診時など職員に同行をお願いしたい」といった要望が出されている。職員は管理者に対して設備面や要望など細かなことでも何でも伝えやすく、気軽に話しかけやすいと感じている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	要望は面会時に聞き取りしており、苦情があれば、意見箱の利用もできる。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	事業所の意見箱の利用や、面会時の聞き取りなどで、要望に耳を傾けている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	管理者が個々の相談や会などで議題にあがった際は代表者へ相談を行っている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	個々の悩みや希望などは個室で話をし検討している			○	

愛媛県グループホーム竹トンボ

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	外部評価の自己評価は職員全員で取り組んでいる				外部評価の自己評価は大変であるが、管理者と職員は「日頃から事業所で行うサービスやケアなどの見直しになっている」と感じている。運営推進会議の際には評価結果と目標達成計画を報告している。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎	評価により改善策をフロア会で話し合い、実践している				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	自己評価により、実践できることを話し合い取り組んでいる				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	◎	評価結果と目標達成計画を運営推進会で報告している	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	◎	運営推進会で報告し、意見をもらっている				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	マニュアル作成しているが様々な訓練は実施できていない。				年2回、消防署の協力のもと、併設のデイサービスと一緒に火災避難訓練を実施し、夜間を想定した訓練も行っている。地域との合同の避難訓練は実施しておらず、災害時対応について家族も不安を感じているため、地域住民が参加した訓練や合同での訓練実施の検討など、話し合いの機会を作り、協力・支援体制を確保して欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	消防署立会いの下、夜間想定で避難訓練を行っている				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	非常用食料や備品は期限の点検は定期的に行っている				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	消防署、防災の方立会いで避難訓練を行っている 運営推進会の時に災害の時の避難について定期的に話合っている	×	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	△	消防署立会いの下、避難訓練は行っているが、他の災害訓練は行っていない				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	○	運営推進委員会で認知症の理解を深めている。年4回の季刊誌を発行、公民館に置いてもらうなど、啓発に取り組んでいる。				管理者は地域住民からの相談があれば支援する意向を持っているが、併設する居宅介護支援事業所やデイサービスが窓口となって対応している。市担当者や他の関係機関とは運営推進会議の開催などを通して連携を密にしている。事業所では学生のインターンシップなどの受入れも行っている。自治会にも参加し、双方のイベントで交流を図っている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	相談があれば受け付けている。		△	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	○	夏祭りやお餅つきを開催、盆踊りにはグループの方が参加してくださる。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	学生のインターンシップの受け入れをしている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	○	運営推進委員会で市役所の方から情報を得たり、管理者は他事業所との情報交換をしている。市とは定期的なメールなどで情報交換している。			○	